

ビジネスプロセスを科学する ～可視化・モデル化・最適化

日 時：2007年5月15日(火) 13:10～17:20 主 催：横幹技術協議会、横幹連合
会 場：東京大学 山上会館 2階 大会議室 (東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学本郷キャンパス内)
参 加 費：横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は無料。
【上記以外】一般 5,000 円
参加申込：【事前登録】ホームページ(<http://www.trafst.jp/forum/>)よりオンライン登録いただくか、
下記の参加申込書にご記入のうえ、fax または電子メールにてお申し込みください。
(氏名、所属、連絡先 Email、TEL、参加費の支払い方法等をご明記ください。)
【当日申込】当日直接、受付へお越しください。(ただし定員に達し次第、受付終了となります)

【企画趣旨】 ビジネスプロセスの革新・改善は、経営の基本課題である。この課題に対して、
ビジネスプロセスをモデル化し、モデルに基づいて最適化するといった科学的アプ
ローチが始まっている。個人行動、組織業務、組織行動などいくつかのレベルでの
技術フロンティアを紹介し、実業務での取組み方法、求められる研究課題等を議論する。

【プログラム】

司会: 船橋誠壽 (日立製作所、京都大学) (敬称略)

13:10-13:20	開会あいさつ	桑原 洋 横幹技術協議会 会長
13:20-14:10	◆講演 「サービスのプロセスと顧客満足度 ～『サービス工学』に基づくビジネスプロセス表現～」	新井民夫 (東京大学)
14:10-15:00	◆講演 「ビジネスプロセスのモデル化技術： ビジネスプロセスアウトソーシングの可能性を可視化する」 (15:00-15:10 休憩)	中谷多哉子 (筑波大学)
15:10-16:00	◆講演 「経営と情報システムのギャップを埋める ユーザ参加型モデリング」	白井宏明 (横浜国立大学)
16:00-16:50	◆講演 「医師不足自治体の地域医療のあり方 －人材育成と医療連携が新たなビジネスモデルに－」	平井愛山 (千葉県立東金病院)
16:50-17:00	閉会あいさつ	木村英紀 横幹連合 副会長

第 15 回横幹技術フォーラム 参加申込書

- 1.お名前： _____ 2.ご所属： _____
- 3.電子メール： _____ 4.TEL： _____
- 5.参加費区分：※該当するものに○印をつけてください。
(a) 横幹技術協議会会員企業の関係者 (b) 横幹連合会員学会の会員 (学会名： _____ 学会)
(c) 学生 (d) その他
6. 上記5で「(d) その他」に該当する方のみご記入ください：
a) 請求書送付が必要な場合：【郵送先・ご請求書の宛名書き】〒 _____
b) 請求書送付が不要な場合：銀行振込予定 _____月 _____日頃 振込人名義 _____

【お申し込み先】 横幹技術協議会 事務局 フォーラム係 tel & fax : 03-3814-4130 email : forum@trasti.jp
【お振込先口座】 三菱東京UFJ銀行 本郷支店 普通口座 4524554 横幹技術協議会 (オウカンギジュツキョウギカイ)
※銀行振込手数料はお振込主様がご負担ください。

交通案内

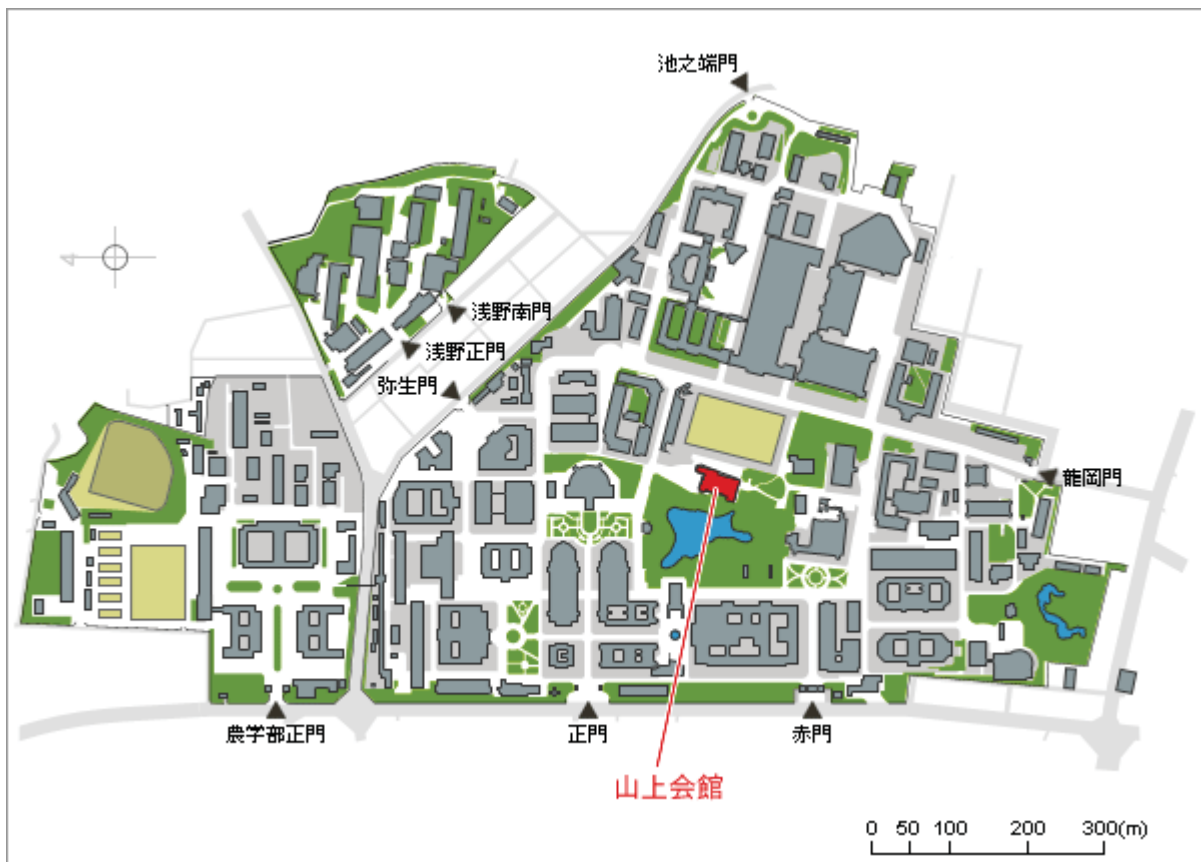
■ 東京大学 山上会館 2階 大会議室

東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学 本郷キャンパス内

地下鉄：東京メトロ 丸の内線「本郷三丁目」駅より、徒歩 8分

地下鉄：東京メトロ 千代田線「湯島」駅または「根津」駅より、徒歩 8分

地下鉄：東京メトロ 南北線「東大前」駅より、徒歩 1分



ビジネスプロセスを科学する ～可視化・モデル化・最適化

2007 年 5 月 15 日 (火) 13:10 ~ 17:20 東京大学 山上会館 2 階 大会議室

【講演要旨】

講演

「サービスのプロセスと顧客満足度 ～『サービス工学』に基づくビジネスプロセス表現～」

◆ 新井民夫氏 (東京大学大学院 工学系研究科 精密機械工学専攻 教授)

「サービス」を表現し、評価する方法論が議論されはじめた。サービスは送り手と受け手との間のインタラクションで表現され、それは徹視的なビジネスモデルプロセスに他ならない。本報告では、サービスを科学する体系のひとつである「サービス工学」に基づいたサービスの表現と評価について論ずる。サービス・エンカウンターは PetriNet、場面遷移ネット、あるいは BPMN で表現され、機能に対する評価をシミュレートする。これらの機能と属性とのネットワークとして顧客満足度を評価し、送り手と受け手のマルチエージェントシステムとしてサービスの流れを構築する。

講演

「ビジネスプロセスのモデル化技術:ビジネスプロセスアウトソーシングの可能性を可視化する」

◆ 中谷多哉子 (筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 助教授)

ビジネス構築のためのビジネスモデリングは、よく話題になるが、ビジネスモデリングは、ビジネスを支援するソフトウェア開発には欠かすことができない。ここ数年、UML というソフトウェア開発で用いられるモデルの表記法をビジネスモデリングに適用しようという動きが出始めている。本講では、UML をビジネスモデリングに適用することによって、どのような情報を可視化できるのかを紹介し、具体的な事例と共に、ビジネスプロセスアウトソーシングの実体をモデルという形で示していく。

講演

「経営と情報システムのギャップを埋めるユーザ参加型モデリング」

◆ 白井宏明氏 (横浜国立大学 経営学部 教授)

ビジネスプロセスモデルの改善や創造には、経営者、スタッフ、業務担当者、システム開発者などの協力関係が必須である。しかしながら、経営ニーズと情報システムの間にはかなりのギャップが存在することが少なくない。これは関係者間に共通の言語が存在しないことが一つの原因である。この関係者間の合意を形成するための手段として、ゲーミング・シミュレーション手法について考える。

講演

「医師不足自治体の地域医療のあり方 —人材育成と医療連携が新たなビジネスモデルに—」

◆ 平井愛山氏 (千葉県立東金病院 院長)

千葉県九十九里沿岸部は、医師配置数が全国平均の半分以下で、とくに糖尿病とその合併症に苦しむケースが後を絶たない。平成 10 年以降、最優先課題である糖尿病の面診療を向上させるため電子カルテネットワークの構築をはじめとして、様々な取り組みを行って来ている。しかし、平成 16 年度の新医師臨床研修制度の導入を契機に、病院勤務医の不足問題が顕在化しており、当院もその例外でなく、平成 18 年 9 月末かつて 12 名いた内科常勤医が 2 名まで激減し存亡の危機にあった。しかし年が明けた平成 19 年 4 月、東金病院は内科常勤医が大幅増員になり (2 人→6 人)、糖尿病診療体制が強化充実した。この危機を乗り越えるべくどのような手を打ったのか？